

30by30に係る認証マークを使用した調査 (仮想の買い物実験) 結果の報告

調査概要

■ 調査概要

30by30目標（2030年までに陸と海の30%以上を保全する目標）の達成に向け、自然共生サイトの認定促進や管理への支援を促進するための方策の検討の参考にするため、30by30ロゴマークを活用した調査を行った。

■ 調査内容

自然共生サイトの認定や管理に貢献した企業や団体が活用できる認証マーク（本調査においては仮に30by30ロゴマークを使用）がついた商品があったときに、通常の商品より購入意欲が上がるか、購入金額を上げて（管理への寄付分を追加）購入されるか、どの見せ方が購入意欲を上げるか（ロゴに付随する説明方法を変えた場合）などを把握するため、仮想で買い物の場面を設定し、通常の商品、ロゴ付き商品等との比較で、「認証マーク」の効果有無や効果的な説明方法について検証する。

■ 30by30ロゴマーク



※本調査内では仮に認証マークとして設定

■ 調査条件

1. 対象商品は仮想の緑茶：500mlペットボトル140円と設定
2. マークあり・なしで価格差を設け、どちらを購入したいかの意識調査
- マークを付ける商品と付けない商品のどちらかの離散選択実験
3. 全ての群について、選択の前に、マークの説明を読んでもらう。
4. 事前に属性等の質問、モニタ自身が日用品を買うのかどうかの質問

参考：昆明・モントリオール生物多様性枠組

2050年ビジョン
自然と共生する世界

2030年ミッション
自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

2050年ゴール

ゴールA
保全

ゴールB
持続可能な利用

ゴールC
遺伝資源へのアクセスと利益配分 (ABS)

ゴールD
実施手段の確保

2030年ターゲット

(1) 生物多様性への脅威を減らす

- 1: 空間計画の設定
- 2: 自然再生
- 3: 30by30**
- 4: 種・遺伝子の保全
- 5: 生物採取の適正化
- 6: 外来種対策
- 7: 汚染防止・削減
- 8: 気候変動対策

(2) 人々のニーズを満たす

- 9: 野生種の持続可能な利用
- 10: 農林漁業の持続的管理
- 11: 自然の調節機能の活用
- 12: 緑地親水空間の確保
- 13: 遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)

(3) ツールと解決策

- 14: 生物多様性の主流化
- 15: ビジネスの影響評価・開示
- 16: 持続可能な消費
- 17: バイオセーフティー
- 18: 有害補助金の特定・見直し
- 19: 資金の動員
- 20: 能力構築、技術移転
- 21: 知識へのアクセス強化
- 22: 女性、若者及び先住民の参画確保
- 23: ジェンダー平等の確保

実施支援メカニズム及び実現条件／責任と透明性（レビューメカニズム）／広報・教育・啓発・取り込み

参考：昆・モ枠組 ターゲット3（30by30目標）

Target 3

Ensure and enable that by 2030 at least 30 per cent of terrestrial, inland water, and of coastal and marine areas, especially areas of particular importance for biodiversity and ecosystem functions and services, are effectively conserved and managed through ecologically representative, well-connected and equitably governed systems of protected areas and other effective area-based conservation measures, recognizing indigenous and traditional territories, where applicable, and integrated into wider landscapes, seascapes and the ocean, while ensuring that any sustainable use, where appropriate in such areas, is fully consistent with conservation outcomes, recognizing and respecting the rights of indigenous peoples and local communities, including over their traditional territories.

ポイント

- ✓ **陸**（陸域と陸水域）と**海**（沿岸域と海域）の**30%以上**を
- ✓ **保護地域**と**OECD**で保全・管理し、
- ✓ より広域の陸上/海洋景観及び海洋に統合する

参考：オールジャパンで取り組む30by30目標

30by30目標 = 2030年までに陸と海の30%以上を保全する新たな世界目標

30by30ロードマップ

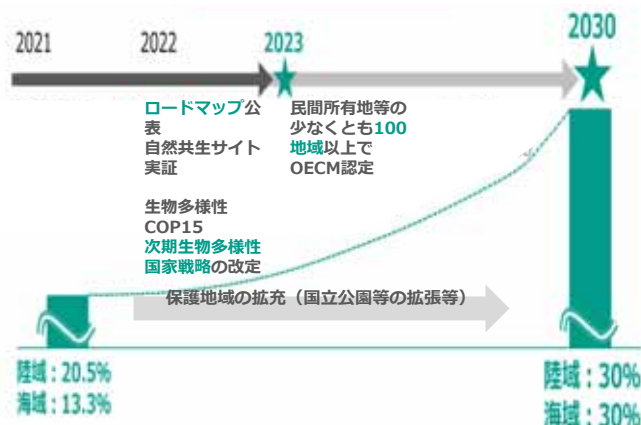
- 国内での目標達成に向け、COP15に先立ち「30by30ロードマップ」を2022年4月に公表
- 国立公園等の保護地域の拡充のみならずOECEMの認定※により目標達成と同時に企業価値の向上や交流人口の増加を通じた地域活性化につなげる

※OECEMの認定：
OECEMとは、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域（里地里山、企業の水源の森等）認定制度について、現在実証を行っており、令和5年度より正式運用開始予定

生物多様性のための30by30アライアンス

- 環境省、経団連、NGO等を発起人とし、30by30を進めるための有志連合「生物多様性のための30by30アライアンス」を2022年4月に発足
- 企業、自治体、NPO法人等、計400者が参加（2023年3月10日現在）
- 自らの所有地や所管地内のOECEM登録や保護地域の拡大等を目指す
（自治体：宮城県、新潟県、兵庫県豊岡市など）
（企業：トヨタ、イオン、パナソニックなど）

国内における30by30目標達成への道筋



30by30アライアンスロゴ



モチーフとしてカエルを採用し、その中に森や海といった自然やそこに住む生きもの、さらには都市や舟など人々の生業を配置。カエルの体部分（上部）は森林など陸域をイメージした緑基調の和紙、顔の部分（下段）は、海や川など水域をイメージした青基調の和紙で表現。

参考：自然共生サイトとOECEM

- 国立公園等の既存の保護地域に加えて、民間等の取組により結果的に生物多様性の保全に貢献している区域（企業緑地、里地里山、都市の緑地）を、環境省が「自然共生サイト」に認定する仕組みを構築中。2023年度から認定を開始。
- 認定地は、保護地域との重複を除き、環境省がOECEM (Other Effective area-based Conservation Measures) として国際データベースに登録することで、COP15で決定された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に直接貢献していることを示すことができる。

OECEMのイメージ

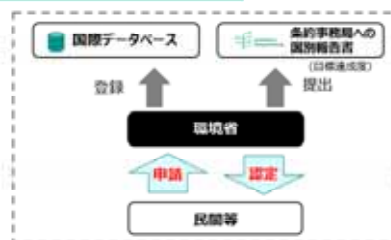


保護地域以外にも、**里地里山、水源の森、都市の自然**など、様々な場所が生物多様性の保全に貢献している

実証事業の実施

- 2022年度に、アライアンス参加者の協力を得て、自然共生サイト認定の仕組みを試行する実証事業を実施
- 2023年中に少なくとも100カ所以上で認定

認定スキームのイメージ



環境省が自然共生サイトに認定。保護地域との重複を除き、OECEM国際データベースに登録

調査方法①


群の構成と介入手法

調査会社モニタ（全国のデモグラフィ属性）を対象にした：500人×3群 RCT
各群でロゴマークの下に記載する説明文を変える

対照群：生物多様性・30by30目標の実現に貢献しています

介入群 1：里地里山の保全を通じて生物多様性・30by30目標の実現に貢献しています

介入群 2：トンボが暮らす田んぼや水辺の保全を通じて生物多様性・30by30目標の実現に貢献しています

	対照群 (500人)	介入群 1 (500人)	介入群 2 (500人)
事前調査 モニタ自身が日用品を買うのかどうかの質問。	○	○	○
30by30ロゴ 	○	○	○
説明文	生物多様性・30by30目標の実現に貢献しています	里地里山の保全を通じて生物多様性・30by30目標の実現に貢献しています	トンボが暮らす田んぼや水辺の保全を通じて生物多様性・30by30目標の実現に貢献しています
WTPの調査：多段階二肢選択方式 金額を提示し 1 問答えたら後戻りができないようにし、それを 7 回繰り返す。	○ (A)ロゴマーク無し:140円 vs (B)ロゴマーク有り:130円 (B)ロゴマーク有り:140円 . . (B)ロゴマーク有り:200円	○ (A)ロゴマーク無し:140円 vs (B)ロゴマーク有り:130円 (B)ロゴマーク有り:140円 . . (B)ロゴマーク有り:200円	○ (A)ロゴマーク無し:140円 vs (B)ロゴマーク有り:130円 (B)ロゴマーク有り:140円 . . (B)ロゴマーク有り:200円

調査方法②

介入手法

WTPの調査として、多段階二肢選択方式と呼ばれる方式で、「ロゴ+説明文（説明文を群で変更）」を見せた後で、ロゴ有り無しについて、価格差を 8 段階でつけていき、ロゴ有り無しどちらを選ぶか、を繰り返すかたちで質問をした。

【対照群】

【介入群 1】

【介入群 2】



A ロゴマーク無し 140円

B ロゴマーク有り 130円

- 1 Aを選ぶ
- 2 Bを選ぶ

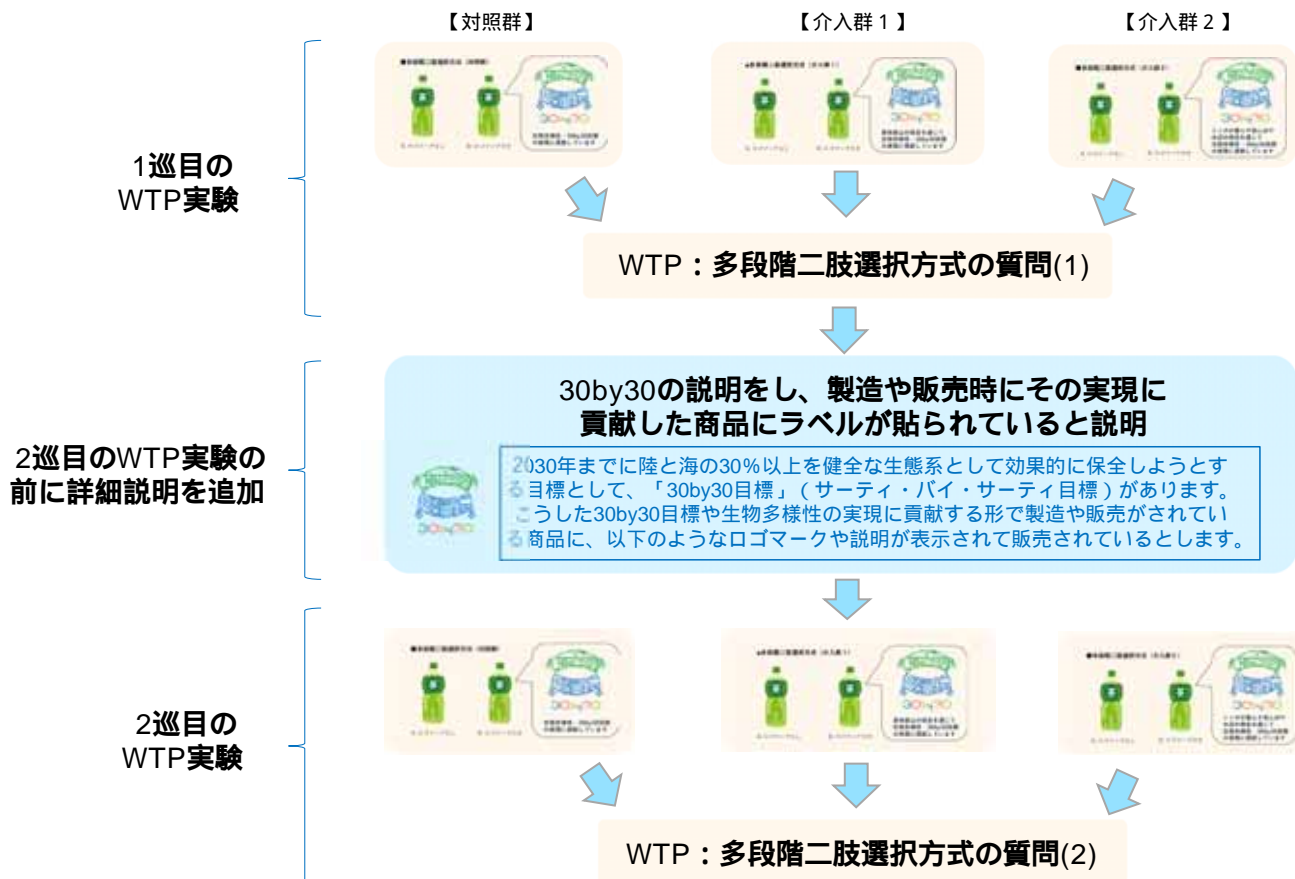
(回答後は画面を変える・後戻りできない。以下同様に繰り返す)

A ロゴマーク無し 140円
A ロゴマーク無し 140円
A ロゴマーク無し 140円
A ロゴマーク無し 140円
A ロゴマーク無し 140円
A ロゴマーク無し 140円
A ロゴマーク無し 140円
A ロゴマーク無し 140円

B ロゴマーク有り 140円
B ロゴマーク有り 150円
B ロゴマーク有り 160円
B ロゴマーク有り 170円
B ロゴマーク有り 180円
B ロゴマーク有り 190円
B ロゴマーク有り 200円

調査方法③

介入手法



調査結果まとめ

(A)：ロゴマークなし (B) ロゴマークあり

対照群：生物多様性・30by30目標の実現に貢献しています

介入群1：里地里山の保全を通じて生物多様性・30by30目標の実現に貢献しています

介入群2：トンボが暮らす田んぼや水辺の保全を通じて生物多様性・30by30目標の実現に貢献しています

■ 30by30のロゴをつけることで、WTPに有意差が見られた。

➢ 140円のお茶に対し6～7円WTPが向上した。

■ 詳細な説明をすることでWTPに有意差が見られた。

➢ 商品購入に際して事前に詳細な説明を行うと（2巡目のWTP実験）どのロゴマークにおいても更に2～3円程度WTPが向上した。

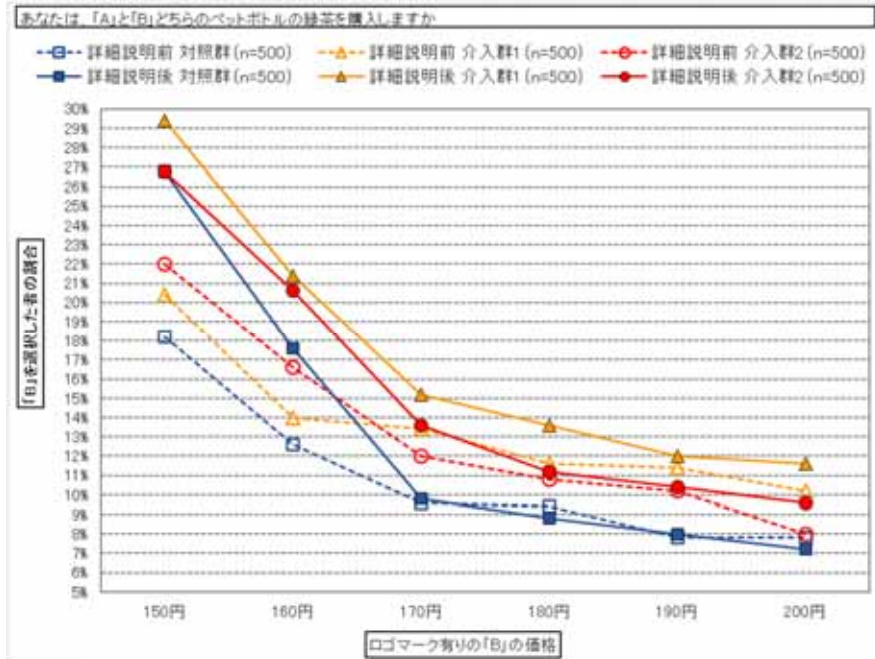
■ 30by30ロゴの説明内容間ではWTPに有意差は見られなかった。

➢ 今回の調査では、付記するメッセージを変えてアプローチをしてもWTPはほとんど変化しなかった。

■ 生物多様性への知識有無等によりWTPに違いが見られた。

➢ 自然・環境保全への関心や、生物多様性への知識を有する者の方がロゴマーク有の商品を選ぶ傾向が高いことが分かった。

参考：詳細の調査結果



価格別 - 「B(ロゴ付き商品)」を選択した者の割合

- 対照群において、150円・160円の小さな価格差なら、詳細説明後の方が前より、有意に「B」の選択率が高かった(青い実線と点線の比較) ①。
- 介入群1は150円と160円で、詳細説明後の割合が有意に高い②
- 介入群2は150円で、詳細説明後の割合が有意に高い③。
- 詳細説明後においては、170円以上の大きな価格差で、介入群1の方が対照群より、有意に「B」の選択率が高かった(青い実線とオレンジ色の実線の比較)。

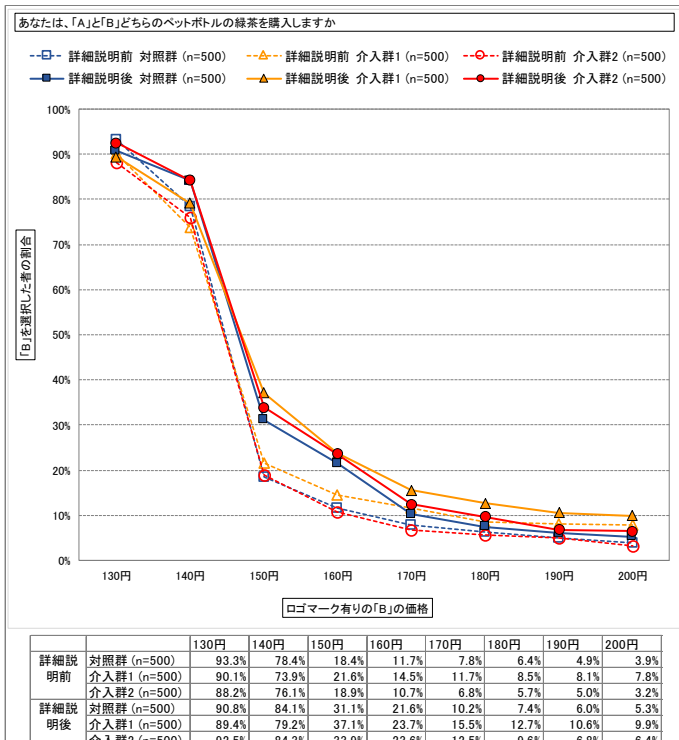
比率の差の検定		150円		160円		170円		180円		190円		200円		150円		160円		170円		180円		190円		200円	
詳細説明後・対照群 / 詳細説明前・対照群	①	150円	160円	170円	180円	190円	200円	150円	160円	170円	180円	190円	200円	150円	160円	170円	180円	190円	200円	150円	160円	170円	180円	190円	200円
%		26.8%	17.6%	9.8%	8.8%	8.0%	7.2%	29.4%	21.4%	15.2%	13.6%	12.0%	11.6%	29.4%	21.4%	15.2%	13.6%	12.0%	11.6%	28.8%	20.6%	13.6%	11.2%	10.4%	9.6%
n		500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
n		500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
加重平均		22.5%	15.1%	9.7%	9.1%	7.9%	7.6%	28.1%	19.5%	12.5%	11.2%	10.0%	9.4%	24.9%	17.7%	14.3%	12.6%	11.7%	10.9%	24.4%	18.6%	12.8%	11.0%	10.3%	8.3%
実現値		3.26	2.21	0.11	-0.33	0.12	-0.36	0.91	1.5	2.58	2.41	2.11	2.3	3.29	3.0	0.81	0.95	0.30	0.71	1.77	1.83	0.78	0.20	0.10	0.89
p値		0.001	0.014	0.457	0.12	0.453	0.180	0.068	0.008	0.005	0.008	0.018	0.005	0.000	0.001	0.208	0.170	0.384	0.239	0.039	0.052	0.224	0.420	0.459	0.186
下限95%		3.45%	0.57%	-3.47%	-4.16%	-3.14%	-3.86%	-2.97%	-1.11%	1.31%	0.90%	0.29%	0.79%	3.67%	2.69%	-2.54%	-2.11%	-3.38%	-2.46%	-0.52%	-0.82%	-2.54%	-3.48%	-3.57%	-1.91%
上限95%		13.75%	9.43%	3.87%	2.96%	3.54%	2.66%	8.17%	8.71%	9.49%	8.70%	7.71%	8.01%	14.33%	12.11%	6.14%	6.11%	4.58%	5.26%	10.12%	8.82%	5.74%	4.28%	3.97%	5.11%

参考：詳細の調査結果

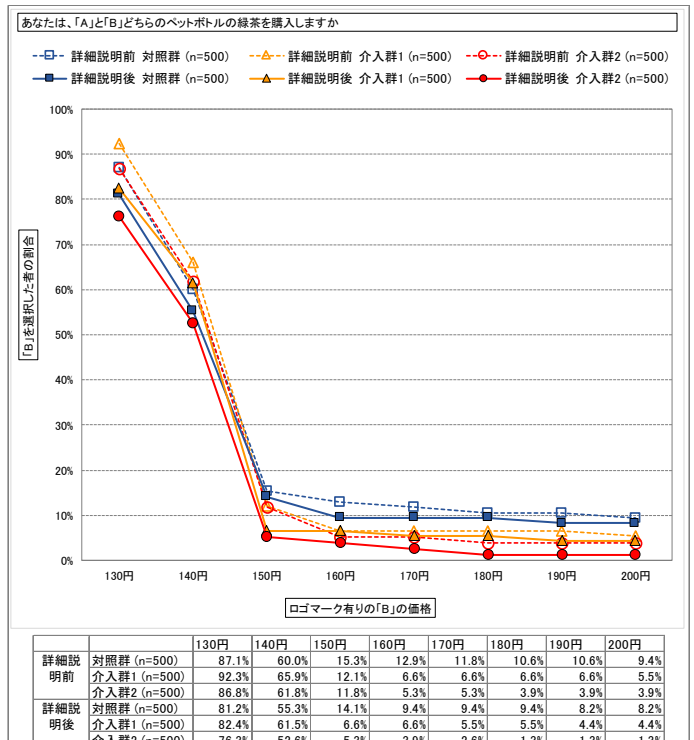
自然・環境保全への関心有無別 - B選択率

- 自然や環境を大切にすることに「関心がある」「どちらかといえば関心がある」とした者は、「まったく関心がない」「どちらかといえば関心がない」とした者に比べ、低価格帯(～160円)でのB選択率が高かった。

【自然・環境保全への関心有り】



【自然・環境保全への関心無し】

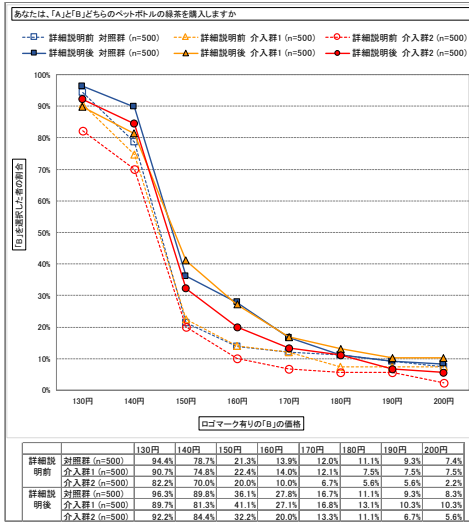


参考：詳細の調査結果

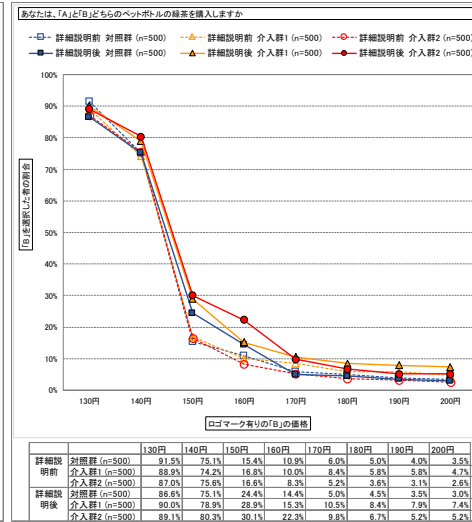
生物多様性という言葉の知識有無別 - B選択率

- 「生物多様性」という言葉を「聞いたこともない」者より、「聞いたことがあるが、意味・内容は知らない」者の方が、150円以下の価格帯でB選択率が高かった。
- 「聞いたことがあるが、意味・内容は知らない」者より、「聞いたことがあり、意味・内容も知っている」者の方が、180円以下の価格帯でB選択率が高かった。

【生物多様性の知識有り】



【生物多様性の知識中間】



【生物多様性の知識無し】

